

科目名	看護学概論	単位(時間)	1(30)	27期生	DP		
担当講師名	平野 ゆき子[看護師]			1年	1・2・3		
				前期			
ねらい	看護学全体の基本的内容から看護学の本質を理解すると同時に、看護学の豊かさや奥深さをイメージし、関心が高まり、各看護学への学習意欲をもつことができる。						
科目目標	①看護の本質と看護理論、および看護の提供者について理解できる。 ②看護の対象と健康について理解できる。 ③看護における倫理について理解できる。						
授業内容	次	内容			担当者	備考	
	1 2	看護とは	1. 看護の定義 2. ケアリング 3. 看護の変遷		平野	講義	
	3 4 5 6	看護理論と主要概念	1. 看護理論家にみる主要概念 2. 看護理論をもとに看護の本質を考える 3. 看護理論を活用した看護の提案			講義 演習 発表	
	7	看護の対象と健康	1. 看護の対象の理解 2. 健康のとらえ方と国民の健康状態			講義	
	8 9 10	看護における倫理	1. 看護実践における倫理問題への取り組み 2. 看護学生と倫理			講義 演習	
	11 12	社会と看護	1. 看護サービス提供の場 2. 看護をめぐる制度と政策			講義	
	13 14	多職種連携	1. 多職種連携演習			※	
	15	試験・まとめ					
	テキスト	看護学概論(医学書院) 看護覚え書(現代社) 実践に生かす看護理論19(医学芸術社) 看護者の基本責務 看護の基本となるもの					
学習を支える情報	1. 看護理論についてグループワークを行いながら、看護を学びます。 2. 教科書を熟読しながら、学習をすすめていきましょう。 3. 厚生統計協会「国民衛生の動向」や厚生労働省ホームページを活用しましょう。 ※保健医療福祉チームにおける多職種連携演習では、日本大学松戸歯学部衛生専門学校の学生、本校第二看護学科の学生とグループワークを行います。 <参考図書>看護六法						
評価	課題は評価日の8:50までに提出がない場合、評価対象とならない。			試験	70		
				課題	看護理論20		
					多職種10		
			合計	100			

科目名	基本技術 I	単位(時間)	1(30)	27 期生	DP	
担当講師名	宍戸 薫 [看護師] 高橋 一昭 [医師・非常勤講師] 大久保 実 [非常勤講師] 柳澤 いずみ [看護師] 奥山 真美子 [看護師]			1年 前期・後期	2・3	
ねらい	1. 基礎的な救命救急に関する知識と技術を取得し、フィジカルアセスメントにつなげることができる。 2. フィジカルイグザミネーションの技術を取得し、対象を把握する意義を理解することができる。 3. 基本的な感染予防の技術を習得し、対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。					
科目目標	①基礎的な救命救急として、一次救命処置の重要性を説明できる。 ②心肺蘇生法として、胸骨圧迫・人工呼吸・AED使用及び回復体位について、手順に沿って実施できる。 ③フィジカルイグザミネーションの意義と看護の役割を理解できる。 ④安全・安楽・正確にバイタルサインを測定できる。 ⑤対象の安全を守る意義と看護の役割を理解できる。					
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考	
	1 2	一次救命処置の基礎知識	1. プレホスピタルの重要性 2. 一次救命処置の方法 1) 心肺蘇生法 (CPR/AED) 2) 気道異物の除去 3. ファーストエイド	高橋	講義・演習 (基礎実習室)	
	3 4	心肺蘇生法	BLSコース * 実技試験を含む	大久保	講習・演習 (基礎実習室)	
	5	ヘルスアセスメント	1. ヘルスアセスメント・フィジカルアセスメント フィジカルイグザミネーションとは 2. 身体計測 1) 身長計測 2) 体重計測 3) 腹囲計測 4) 皮下脂肪の測定 3. 問診 (健康歴の把握)	宍戸	講義・演習 (基礎実習室)	
	6	フィジカルアセスメントに必要な技術	1. 身体診察 1) 視診 2) 触診 3) 打診 4) 聴診	宍戸	講義・演習 (基礎実習室)	
	7 8 9	バイタルサインの測定	1. バイタルサインとは 2. バイタルサインの観察とアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 呼吸 4) 血圧 3. バイタルサインに影響する因子 4. 患者に合ったバイタルサインの測定の方法を考える。	宍戸	講義・演習 (基礎実習室)	
	10	バイタルサイン測定の意味と看護の役割	1. バイタルサイン測定の意味 2. 看護の役割	宍戸	グループワーク	
	11	安全・感染予防の基礎	1. 標準予防策 2. 感染予防の基礎知識	柳澤	講義・演習 (基礎実習室)	
	12 13	感染予防の技術	1. 感染経路別予防策 2. 無菌操作 3. 感染性廃棄物の取り扱い 4. 医療安全とは	奥山	講義・演習 (基礎実習室)	
	14	安全の意義と看護の役割	1. 安全の意義 2. 看護の役割	奥山	グループワーク	
	15	試験・技術試験		各担当		
	テキスト	基礎看護技術 I・II (医学書院)				
	学習を支える情報	1. 基本技術 I は全ての看護に共通する技術の基礎を学びます。常に患者の立場を考えながら根拠を伴った確かな技術を習得しましょう。 2. 日常生活の中でも私たちは救命の現場に立ち会うことがあります。基本的な救命処置について学習し、急変時に対する対応について修得していきましょう。また、将来看護師を目指す立場として看護学生としての自覚を更に高めていきましょう。 3. BLSで得た気づきや基礎知識から対象者の状態の変化を瞬時に察知できる観察力、必要な看護援助(フィジカルイグザミネーション)へとつなぐ能力を養っていきましょう。 4. フィジカルイグザミネーション:バイタルサイン測定には五感を使うこと、血圧計や聴診器等の取り扱いに慣れることが大切です。また、トレーニングすることで必ず上達します。自主的にトレーニングを重ね、技術の上達を目指しましょう。解剖生理の知識が必要となります。授業の復習をすると共に疑問点は主体的に学習しましょう。 5. 安全・感染予防:これから学ぶ技術の全てにおいて、安全・感染予防を考慮していきます。根拠と共に確かな技術を習得しましょう。 6. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)				
	評価	・評価項目の試験・技術試験・レポートそれぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。 ・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。			試験	フィジカル 25 安全 25
					技術試験	30
レポート					20	
合計					100	

科目名	基本技術Ⅱ		単位(時間)	1(20)	27期生	DP	
担当講師名	平野 ゆき子[看護師] 市原 薫美[看護師] 山中 真弓[看護師・助産師]				1年	1・2	
					前期・後期		
ねらい	1. 基本的なコミュニケーション、記録・報告の技術を取得し、対象を把握する意義を理解できる。 2. 患者が安楽に過ごすための援助方法を習得し、看護の役割を理解できる。						
科目目標	①看護における基本的なコミュニケーションの必要性を理解できる。 ②記録の目的や機能・構成を理解できる。 ③患者が安楽に過ごすための援助方法を習得し、安楽の意義と看護の役割を理解できる。						
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考	
	1 2	コミュニケーション	1. 看護場面でのコミュニケーション 2. コミュニケーションの構成要素・成立過程 3. 看護師に必要なコミュニケーション能力とは 4. 患者－看護師関係構築のためのコミュニケーション技術 5. 看護カウンセリングの基礎(傾聴・共感・受容・承認) 6. コミュニケーション障害のある患者への対応		平野	講義 グループワーク (発表)	
			1. 看護記録の法的位置づけ 2. 看護記録の目的・機能・管理 3. 看護記録の構成 4. 記録の実際 5. 報告の実際				市原
	5 6 7 8	安楽の技術	1. ポジショニング 2. リラクゼーション		山中	講義・演習 (基礎実習室)	
			1. 安楽の意義 2. 看護の役割				各担当
	9	安楽の意義と看護の役割	1. 安楽の意義 2. 看護の役割		各担当	グループワーク	
	10	試験					各担当
	テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)					
	学習を支える情報	1. 基本技術Ⅱは全ての看護に共通する技術の基礎を学びます。常に患者の立場を考えながら根拠を伴った確かな技術を習得しましょう。 2. コミュニケーション:看護を行うために基盤となる技術です。人間関係論・心理学での学びを想起し学習に活かしましょう。 3. 記録:対象を理解する方法の一つとして、また医療チームの一員として必要となる大切な技術です。 4. 患者が安楽に過ごすための援助について様々な方法を学んでいきます。患者体験を大切にしながら、患者の安楽と看護の役割について、グループワークを通じて考えていきましょう。 5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料>・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)					
	評価	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、すべて出席することで試験を受けられる。				試験	コミュニケーション
記録・報告							30
安楽						30	
					合計	100	

科目名	看護の展開技術 I	単位(時間)	1(20)	27期生	DP
担当講師名	市原 篤美 [看護師]			1年	2・4
				後期	
ねらい	1. 健康障害や治療・療養生活が患者に及ぼす影響と患者の願いを捉える意味が理解できる。 2. 日々変化する患者の状況に合わせた看護を考える方法が理解できる。				
科目目標	①看護の基盤となる考え方と構成要素について理解する。 ②看護過程の意義と構成要素が理解できる。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1	看護過程の基盤となる考え方	1. 問題解決過程とは 2. クリティカルシンキング 3. 倫理的配慮と価値判断 4. リフレクション	市原	講義
	2 8	看護過程の各段階	1. 情報収集 2. 情報の整理 3. 情報の分析・解釈 4. 全体像・統合 5. 患者の願いを捉える ～ビジョン・ゴールの設定 6. 課題・戦略の設定 7. 看護実践 8. 評価・修正		講義・演習
	9	看護過程とは	1. 看護過程とは		講義
	10		試験		
テキスト	基礎看護技術 I (医学書院)				
学習を支える情報	<p>1. この科目では、看護を展開するために必要な思考過程についての基礎的な知識を学んでいきます。既習の基礎科目・専門基礎科目をはじめ、看護学概論・基本技術 I・生活援助技術や、その他の専門科目の知識を活かし、科学的な根拠に基づいた看護の展開方法を理解していきましょう。</p> <p>2. 思考過程を活用しながら患者の思いや生活の状況を捉え必要な看護を考えていきます。実習や学内での学びを想起しながら学習に取り組んでいきましょう。</p> <p>3. この科目は基礎看護学実習 II や各領域の看護を学んでいく基礎となる科目です。患者をより理解していけるよう主体的に学んでいきましょう。</p> <p>4. 講義やグループワークをしながら学びを深めていきます。グループでの意見交換は思考の広がりや深まりに大切になってきます。グループで協力し互いに高め合って学習を進めていきましょう。</p> <p><参考資料></p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第5版 (学研) ・看護がみえる④ 看護過程の展開(メディックメディア) <p>他 看護理論・薬剤・検査・疾患・症状に関する図書</p>				
評価	・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。			試験	100
				出席	
				課題	
				発表	

科目名	生活援助技術Ⅰ 「環境」「活動・休息」	単位(時間)	1(30)	27期生	DP	
担当講師名	友田 枝梨子[看護師・保健師] 實方 美保子[看護師]			1年	1・2・4	
				前期		
ねらい	患者にとって安全で快適な生活環境を整えるための援助方法を習得し、環境調整の意義と看護の役割を理解できる。 患者にとって安全・安楽・自立に向けた活動・休息の援助方法を習得し、活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。					
科目目標	①環境を調整する意義と看護の役割が理解できる。 ②活動・休息の意義と看護の役割を理解できる。 ③安全・安楽に病床を整えることができる。 ④安全・安楽・自立を考慮した移動・移送の援助ができる。 ⑤様々な状態に合わせた看護援助を考えることができる。					
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考	
	1	病室の生活環境	1. 療養生活の環境 2. 病室の環境のアセスメント	友田	講義 グループワーク	
	2	病室の環境を整える技術	ベッドメイキング		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	3 4		シーツ交換			
	5		環境整備			
	6		環境の意義と看護の役割			1. 環境の意義 2. 看護の役割
	7	人間の自然な動きと基本動作	1. よい姿勢とボディメカニクス 2. 体位 3. 活動と運動のアセスメント	實方	講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	8 9	活動と運動を促す援助	1. 体位変換 2. 移動・移送の援助 (車いす・ストレッチャー・歩行介助)		講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	10				講義・演習 グループワーク (基礎実習室)	
	11	活動の援助の意義と看護の役割	1. 活動・休息の意義 2. 看護の役割		講義・演習 (基礎実習室)	
	12 13	様々な状態にある人の看護援助	事例検討		講義・演習 グループワーク	
	14		安全・安楽・自立を考慮した援助とは (発表)			
	15		試験・技術試験	各担当 教員		
	テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
	学習を支える 情報	1. 自己の生活を振り返り、人間にとっての環境調整や活動・休息の意義を考えましょう。 2. 環境調整の援助は病院見学を通して学んだことを含め、安全・快適性の視点から考えましょう。 3. 活動の援助は患者の身体に触れる機会の多い援助です。患者体験を通して患者への配慮を考え安全・安楽・自立の視点から援助を考えていきましょう。 4. 患者の苦痛を緩和する援助を通して、患者における適切な活動や休息の取り方を考えていきましょう。 5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料>・看護がみえる1 基礎看護技術 (メディックメディア)				
評価	・評価項目の試験・技術試験・課題それぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。 ・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。			試験	環境30	
					活動30	
				課題	10	
				技術試験	30	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅱ 「食事」「排泄」		単位(時間)	1(20)	27期生	DP
担当講師名	友田 枝梨子[看護師・保健師] 實方 美保子[看護師]			1年		1・2・4
				前期・後期		
ねらい	1. 患者が安全に食事をするための援助方法を習得し、食事の意義と看護の役割を理解できる。 2. 患者にとって安全・安楽な排泄の援助方法を習得し、排泄の意義と看護の役割を理解できる。					
科目目標	①人間にとっての食事の意義・基礎知識を理解できる。 ②対象に応じた食事介助の方法を考えられる。 ③非経口的栄養摂取の援助を知る。 ④人間にとっての排泄の意義を理解できる。 ⑤対象に応じた排泄の援助方法を考えられる。 ⑥排泄の援助を受ける対象の気持ちを考えられる。					
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考
	1	食事援助の基礎知識	1. 栄養状態および摂食能力、食欲や食に対する認識のアセスメント		友田	講義
	2 3	食事摂取の援助	1. 食事介助の基礎知識 2. 食事介助の実際 3. 事例患者の食事援助の実際 患者に合った食事援助の方法を考える。			講義・演習 (基礎実習室)
	4	非経口的栄養摂取の援助 食事の意義と看護の役割	1. 経管栄養法 2. 中心静脈栄養法 3. 食事の意義、看護の役割			講義 グループワーク (基礎実習室)
	5	自然排尿・自然排便への援助	1. 自然排尿および自然排便の基礎知識 2. 排泄援助のアセスメント 排泄用具の種類と特徴 3. 排便・排尿障害の種類と看護		實方	講義・演習 (基礎実習室)
	6	浣腸	1. 浣腸の原理・原則 2. グリセリン浣腸施行時の看護 3. 浣腸の実際			演習 (基礎実習室)
	7 8	導尿	1. 導尿の原理・原則 2. 一時的導尿施行時の看護 3. 一時的導尿の実際 4. 持続的導尿時の看護			演習 (基礎実習室)
	9	排泄の意義と看護の役割	1. 排泄の意義、看護の役割			講義 グループワーク
	10		試験		友田・實方	
	テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
学習を支える情報	1. これまで習得した活動・安楽・感染予防の技術を活かしましょう。 2. 排泄の援助はプライバシーに配慮することが大切です。体験を通して患者の気持ちを考え患者の羞恥心に配慮した援助を考えましょう。 3. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる 1 基礎看護技術 (メディックメディア) ・看護がみえる 2 臨床看護技術 (メディックメディア)					
評価	・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。			試験	食事50 排泄50	
				合計	100	

科目名	生活援助技術Ⅲ 「清潔」		単位(時間)	1(30)	27期生	DP			
担当講師名	宍戸 薫 [看護師]			1年	1・2・4				
				後期					
ねらい	患者にとって安全で心地よく清潔を保つために必要な援助方法を習得し、清潔・衣生活の意義と看護の役割を理解できる。								
科目目標	①清潔を保つための援助方法が理解できる。 ②安全で心地よい清拭・寝衣交換の援助方法が習得できる。 ③対象者に合わせた清潔援助をアセスメントし、安全・安楽・自立の視点で心地よい清潔援助方法を考える。 ④清潔・衣生活の意義が理解できる。								
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考			
	1	清潔・衣生活	1. 人間の清潔行為・衣生活 2. パフォーマンス課題 3. ビジョン・ゴール		宍戸	講義			
	2	対象に合わせた 清潔援助	心地よい清潔			宍戸	講義・演習 グループワーク (基礎実習室)		
	3		足浴						
	4		安全で安楽な寝衣交換						
	5		安全で心地よい清拭(熱布清拭)						
	6 7	対象に合わせた清拭・寝衣交換							
	8	口腔ケア	臥床患者の口腔ケア					講義・演習 (基礎実習室)	
	9 10	洗髪	対象に合わせた洗髪				講義・演習 (基礎実習室)		
	11	身体各部位の清潔 援助の方法	陰部洗浄				講義・演習 (基礎実習室)		
	12 13	ADL拡大に伴う清 潔の援助	ADLに合わせた清拭・シャワー浴・足浴・洗髪の方法を 考える。				講義・演習 (基礎実習室) (在宅実習室)		
	14	清潔・衣生活の意 義と看護の役割	1. 清潔・衣生活の意義 2. 看護の役割				グループワーク		
	15		試験・パフォーマンス課題						
	テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ(医学書院)							
	学習を支える 情報	1. パフォーマンス課題は、演習で体験する患者役を通して感じたことを活かし、患者にとってより良い方法を考えていきましょう。また、グループで意見交換し、自己の考えを広げましょう。 2. これまで習得した環境・活動・安楽の技術や感染予防の技術を活かしましょう。 3. 基礎科目、専門基礎科目で学んだことを、患者の身体面・精神面・社会面の理解に活かしましょう。 4. 実際に患者役の身体に触れながら、安全・安楽・自立の視点で技術の習得をしていきます。肌の露出の機会が多いため、羞恥心や保温への配慮が必要となります。患者が心地よいと感じるような援助を目指していきましょう。 5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア)							
評価	・演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみを整えることが、演習参加の条件である。 ・評価項目の試験・パフォーマンス課題それぞれが60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、全て出席することが試験を受ける条件となる。						試験	70	
					課題		30		
					合計	100			

科目名	生活援助技術Ⅳ 様々な状態にある人への援助		単位(時間)	1(25)	27期生	DP		
担当講師名	宍戸 薫 [看護師] 市原 薫美 [看護師] 他				1年	1・2・4		
					後期			
ねらい	様々な状態にある人の看護について安全・安楽・自立の視点で考え実践できる。							
科目目標	1. 対象者の特性や健康状態・反応を捉えながら安全・安楽・自立の視点で看護を実施できる。							
授業内容	次	単元	内容		担当者	備考		
	1	ガイダンス	ビジョン・ゴール 戦略の確認		宍戸 市原 他	講義		
	2 3 4 5 6	対象に合わせた援助 について考える (ケース1)	・事例紹介 ・様々な状況に合わせた看護援助の実際			講義・演習 グループワーク (基礎実習室)		
	7 8 9 10 11					対象に合わせた援助 について考える (ケース2)	・事例紹介 ・様々な状況に合わせた看護援助の実際	
	12	安全・安楽・自立を 考慮した援助とは	発表準備・発表・まとめ					
	13	技術試験				講義・演習 (基礎実習室)		
	テキスト	基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ (医学書院)						
	参考書 資料等	<p>1. この科目ではこれまで習得した基本技術Ⅰ・Ⅱ、生活援助技術Ⅰ～Ⅲで学んだことを参考に、対象の生活に合わせた援助を実施していきます。対象の生活を想起しながら、必要な看護援助を安全・安楽・自立の視点に沿って考えていきましょう。</p> <p>2. 看護は知識だけでなく、確実な技術も必要とされます。リフレクションを活用して自己の技術を振り返りながら、より患者にあった看護技術が提供できるよう研鑽していきましょう。</p> <p>3. 単元の最後の時間に安全・安楽・自立を考慮した援助についてグループワークと発表を行います。演習を通して考えたことや、より患者にあった看護について他者と共有し、自己の考えを深めましょう。</p> <p><参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア)</p>						
	評価	・評価項目の各課題・技術試験それぞれ60%以上の評価を取ることが単位取得の条件となる。 ・技術を伴う演習は、演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが演習参加の条件となる。 ・技術を伴う演習は全て出席することが試験を受ける条件となる。 ・技術試験については成績評価並びに単位の認定に関する規定に則り実施する。				技術試験	40	
						課題 (グループ)	30	
課題 (個人)						30		
合計						100		

科目名	診療に伴う援助技術 I	単位(時間)	1(15)	27期生	DP
担当講師名	高坂 香苗 [看護師]			1年	1・2・4
				後期	
ねらい	安全・安楽な診療の補助技術を習得し、看護の役割を理解できる。				
科目目標	1. 呼吸・循環を整える援助の意義が理解できる。				
授業内容	次	単元	内容	担当者	備考
	1 2 3	呼吸・循環を整える技術と看護	1. 吸入療法 2. 酸素療法(酸素吸入)	高坂	講義・演習 (基礎実習室)
	4 5		1. 排痰ケア(体位ドレナージ) 2. 口腔・鼻腔吸引		講義・演習 (基礎実習室)
	6		吸入・吸引療法における看護の役割		講義(・演習) グループワーク
	7		体温管理の技術(電法)		講義・演習 (基礎実習室)
	8		試験		
テキスト	基礎看護技術Ⅱ (医学書院)				
学習を支える情報	<p>1. 呼吸・循環の解剖生理学や形態機能学を復習し、技術に活かしましょう。</p> <p>2. 吸入・吸引は清潔・汚染の区別が重要です。感染予防の技術を活かして演習に臨みましょう。</p> <p>3. 吸引は患者の苦痛を伴うことがあるため、安全であると同時に安楽に技術を提供することが大切です。安楽に援助を行うための工夫も考えましょう。</p> <p>4. 体温管理の技術では、形態機能学の学習をもとに援助技術を学んでいきましょう。</p> <p>5. 単元の最後の時間に援助の意義と看護の役割についてグループワークを行います。演習を通して考えたことを他者と共有して自己の考えを深めましょう。</p> <p><参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア)</p>				
評価	演習に必要な学習と演習にふさわしい身だしなみが整っていることが、演習参加の条件である。 技術を伴う演習は、全て出席することで試験を受けられる。			試験	100
				出席	
				課題	
				発表	

科目名	看護を知る実習	単位(時間)	1(30)	27期生	DP
担当講師名	市原 篤美[看護師] 宍戸 薫[看護師]他			1年	1・2・3・4
				前期	
ねらい	様々な場面における看護体験をとおして「看護」とは何かを考え、看護師らしく行動するための姿勢と対象を理解する力を養う。				
科目目標	看護場面の見学や体験をとおして、看護とは何かを意味づけることができる。また、看護師らしく考えようとするために必要な知識・技術・態度がわかる。				
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】 小張総合病院、キッコーマン総合病院、野田病院 他				
	日程	内容	方法		臨地/学内
	1	全体オリエンテーション	実習に向けた心構えや臨地実習を効果的に行うための準備をする。		学内
	2	フロアオリエンテーション			
	3	臨地オリエンテーション	実際の臨地場面のオリエンテーションを受け、実習に向けての準備をする		臨地・施設
	4	シミュレーション学習	実習場면을イメージしながら学習の準備をする		学内
	5 6 7	臨地実習	<ul style="list-style-type: none"> ・看護師と一緒に行動し、看護師の動きや対象者との関わりなど看護の実践場面を見学する。 ・看護師との対話から看護師の気づき、看護実践の意味づけや看護に必要な気づきや対象の捉え方について考える。 ・リフレクションから看護とは何か、看護師の役割について考える。 		臨地・施設
	8	学内・リフレクション	実習での学びを共有しながら、看護師の思考を確認する		学内
	9	学内・再構築 評価			
	テキスト	・基礎看護技術 I、II (医学書院)・成人看護学(医学書院) ・老年看護学(医学書院)			
学習を支える 情報	<ol style="list-style-type: none"> 1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. 様々な実習場所へ行き、看護の対象者と関わります。オリエンテーションやシミュレーション学習を参考に、看護師の行動の意味付けや思考、対象者の理解について深めていきましょう。 3. 初めての看護実習です。看護への関心を持つと共に看護学生としての責任を持った行動をとりましょう。 4. 実習の学びは臨地での実習終了後のまとめで深まります。学びを深め、今後の学習につなげていきましょう 				
評価	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席となります。 ・実習評価は、ルーブリックにより総合的に行います。 ・提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。 				

科目名	基礎看護学実習 I	単位 (時間)	1 (45)	27期生	DP	
担当講師名	市原 篤美[看護師] 宍戸 薫[看護師] 他			1年	1・2・3・4	
				後期		
ねらい	患者の思いや生活、対象にあった援助について考え、対象を捉える視点や日常生活援助の方法を考え、実施する能力を養う。					
科目目標	健康を障害された対象の思いや状態に合わせた援助の実践を通して、生活を整える看護の必要性と看護師の役割を理解する。					
実習場所 スケジュール 実習内容	【実習場所】東京慈恵会医科大学附属柏病院					
	日程	内容	方法		臨地/学内	
	1	全体オリエンテーション			学内	
	2	実習オリエンテーション ビジョン・ゴールの設定	・実習に向けた心構えや臨地実習を効果的に行うための準備をする。			
	3	フロアオリエンテーション				
	4 8	病棟オリエンテーション 受け持ち患者決定 看護実践	・患者を1名受け持ち実習する。 ・患者と関係構築を図りながら患者の思いを捉える。そして、必要な援助を考え患者に合った方法で実践する。 ・カンファレンス(日々・最終)を通して学びを共有しその後の看護実践に活かす。		臨地	
	9	再構築	・実習で得た看護の経験を振り返り、グループワークによって知の共有と看護の理解を深める。 ・自己の成長を俯瞰するとともに実習で獲得した価値ある知と課題を明確する。		学内	
	10					
	11	対話				
	テキスト	・基礎看護技術 I II (医学書院) ・臨床看護総論(医学書院) ・解剖生理学 (医学書院) ・成人看護学 (医学書院)				
	学習を支える情報	1. 実習要綱を熟読し、自らのビジョン・ゴールに向けて具体的に戦略を立てて実習に臨みましょう。 2. これまで学習してきた基本技術 I・生活援助技術を復習しておくこと実習に活かします。フィジカルアセスメント技術・バイタルサインの測定や日常生活の援助技術は学内で十分練習しておきましょう。 3. 初めて患者を受け持ち、実習指導者と共に援助を行います。看護への関心を持つと共に看護学生として責任を持った行動をとりましょう。 4. 実習の学びは臨地での実習終了後のまとめで深まります。学びを深め、今後の学習につなげていきましょう。 <参考資料> ・看護がみえる1 基礎看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる2 臨床看護技術(メディックメディア) ・看護がみえる3 フィジカルアセスメント(メディックメディア)				
評価	1. 成績評価を受ける資格は、所定時間数の6分の5以上の出席となります。 2. 実習評価は、ルーブリックにより総合的に行います。 3. 提出物の提出期限が守れない場合は、評価対象とならない。					